



ビ●デルのスカートの中を、
ローアングルからのぞけ！
パンストをビリビリに引き裂いて、
チ●ポをプチ込め！

ボディコン服に
身を包んだビ●デルが、
ケツ振ってジュリアナダンス！

バブルドラゴン ビ★デル 妊娠おめでとう SP



・このたびは、「バブルドラゴンビーデル妊娠おめでとう SP」をお買い上げいただき、ありがとうございました。

CG 集：「バブルドラゴンビーデル妊娠おめでとう SP」

完成日：2014 年 4 月 3 日

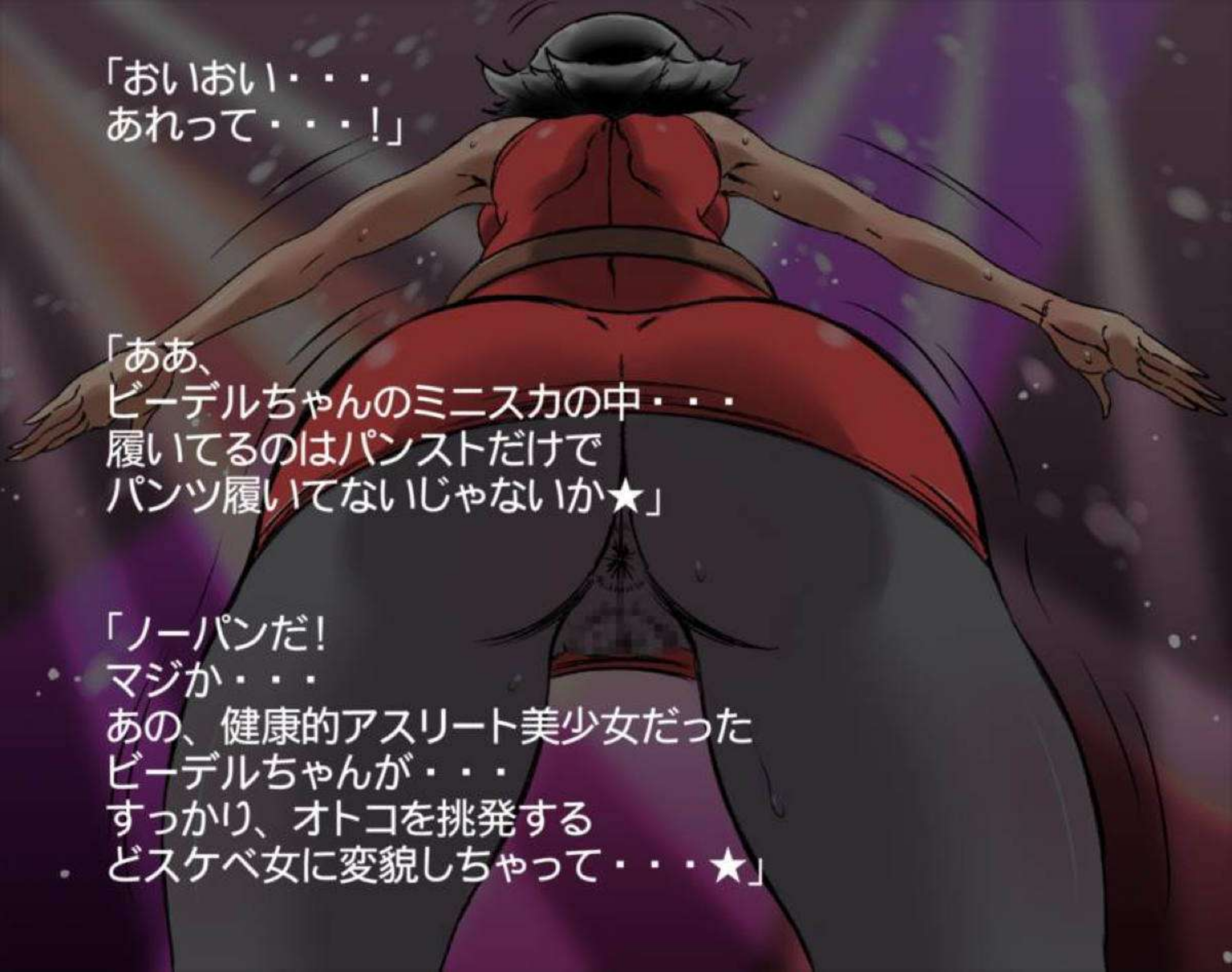
制作者：滝本道場

<http://t-dojosakura.ne.jp/>

- この作品は成人向けです。18 歳未満の方の閲覧を禁じます。
- 当サークル（アルタイトル、滝本、滝本道場、T-DOJO）が発行した、同人誌・CG 集の無断配布・複製・公開を一切禁じます。（ネットへのアップロード・データ交換・媒体へのコピーなど、手段を問わず禁じます）
- 本作の内容はフィクションです。犯罪行為を助長するものではありません。まねをしないでください。

バブルドラゴン ビーデル 妊娠おめでとう SP






「おいおい・・・
あれって・・・!」

「ああ、
ビーデルちゃんのミニスカの中・・・
履いてるのはパンストだけで
パンツ履いてないじゃないか★」

「ノーパンだ!
マジか・・・
あの、健康的アスリート美少女だった
ビーデルちゃんが・・・
すっかり、オトコを挑発する
どスケベ女に変貌しちゃって・・・★」

A woman with long blonde hair, wearing a red dress and blue high-heeled shoes, is dancing on a stage. She is seen from the back, with her arms raised and hands clasped. The background is a blurred, colorful stage with spotlights.


「会場中の男たちが、
ざわめき立ってる……」

まさか……
もうバレちゃった？

思い切ってノーパンにしたけど、
パンスト越しなら
みつからないと思っていたのは、
考えが甘かったみたい……

ヒク、ヒクッ……

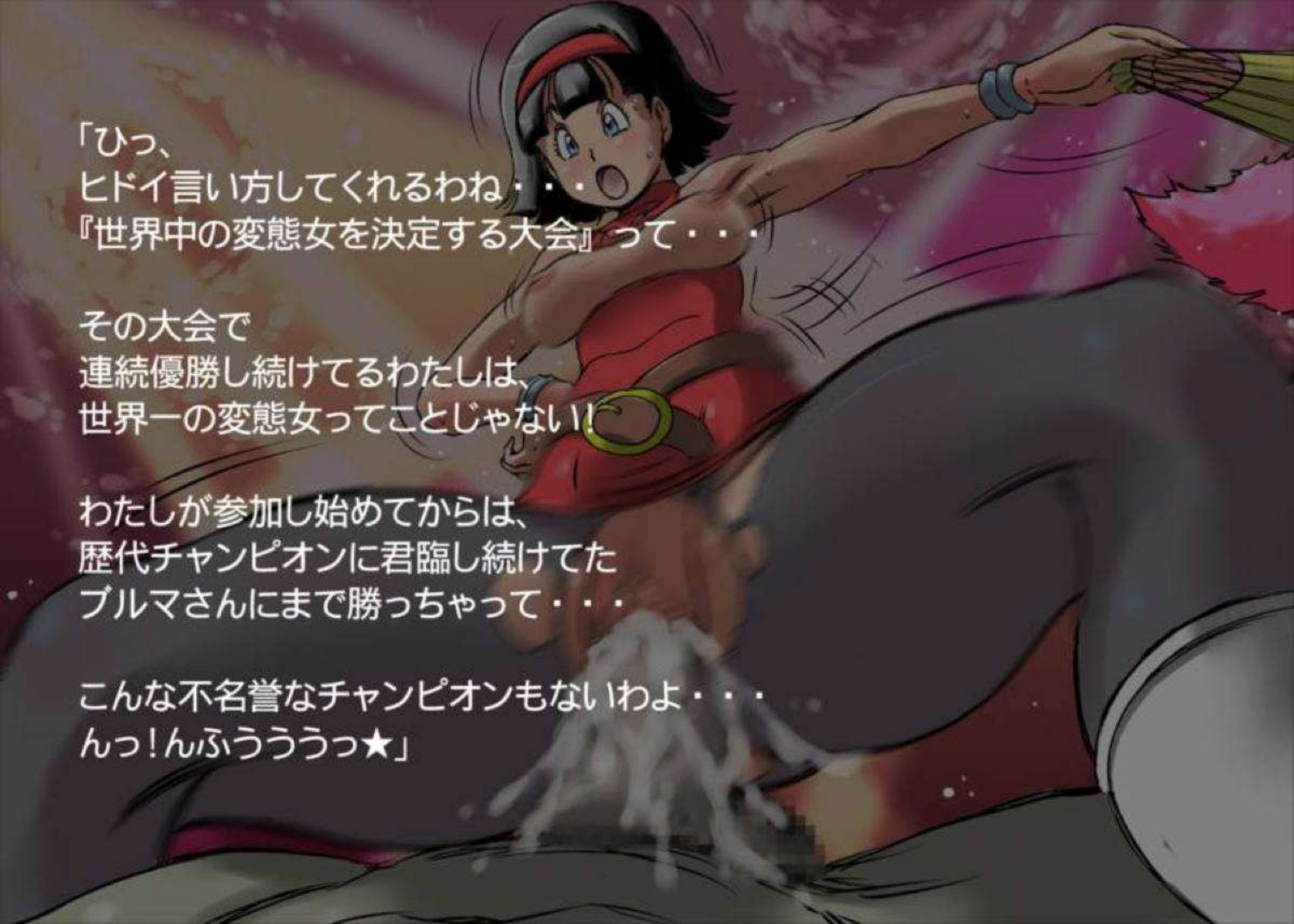
やだ……
こんなに大勢の男の人に
アソコを見つめられていたら……
もう、こんなに……」

A character with short black hair and blue eyes, wearing a red dress with a green belt and a red headband, is being pulled by a hand from the right. The background is a dark, reddish-purple gradient with some white specks. The character has a surprised expression.

「『友達に誘われて参加した』
なんて言い訳をしながら、
初めはイヤイヤ参加していた
ビーデル選手！」

今では、すっかり普段着になってしまった
ボディコン服！
もはや、言い訳もできません！

なんだかんだで、
世界中の変態女が集まるバブルドラゴンに
今回も出場！
最初以外は自主的に参加しちゃってます！」




「ひっ、
ヒドイ言い方してくれるわね・・・
『世界中の変態女を決定する大会』って・・・

その大会で
連続優勝し続けてるわたしは、
世界一の変態女ってことじゃない!

わたしが参加し始めてからは、
歴代チャンピオンに君臨し続けてた
ブルマさんにまで勝っちゃって・・・

こんな不名誉なチャンピオンもないわよ・・・
んっ!んふうううっ★」



「はぁあううう・・・
また・・・また、
誰かもわからない人の
精液を注入されちゃった・・・

それにしても・・・
結婚前の妊娠が発覚してからは、
みんなのわたしを見る目が
一気に変わっちゃった・・・

以前は
アイドルみたいな扱いだったのに、
今では、すっかりゴシップ女だとか
セックスシンボルだとか
卑猥なイメージがついちゃって・・・」



「おおお〜っ！
まさか・・・
大事な今の時期に、
ビーデルちゃんが
バブルドラゴンに出場してくれるなんて
思わなかったよお〜っ！」

「ビーデルちゃん、
今はこのボディコン服が
普段着なんだって？」

「まったく・・・
以前の、スパッツとか
体のラインがわからない服で
完全防御していたころの
ビーデルちゃんは
どこに行っちゃったんだろうねエ〜っ？」



「彼氏に種付けされちゃったのは
悔しいけど・・・
随分エッチな娘に成長してくれて
おじさんたちは嬉しいよおお～っ！」

「相変わらず、
バブルドラゴンでは
エッチな観客の卑猥な野次が
次々飛んでくるわね・・・

あっ！
ちょっと待ってよバカあ！
誰も、チンポ欲しいなんて
頼んでないでしょおおっ？
あっ！あおああああ～っ★」



「彼氏に種付けされちゃったのは
悔しいけど・・・
随分エッチな娘に成長してくれて
おじさんたちは嬉しいよおお～っ！」

「相変わらず、
バブルドラゴンでは
エッチな観客の卑猥な野次が
次々飛んでくるわね・・・

あっ！
ちょっと待ってよバカあ！
誰も、チンポ欲しいなんて
頼んでないでしょおおっ？
あっ！あおああああ～っ★」



「あなたたちみたいないやらしいおじさん達にエッチなコトされ過ぎて・・・

無理やりエッチな女にさせられたからじゃないのっ？

「おいおい、ちょっと待ってくれよビーデルちゃああ～んっ！自分から喜んでオナナに変わっていったじゃないか～！

そもそも、男とチンポを期待しなきゃ、バブルドラゴンなんかに出場しないって～！」

「やはあああ～っ！コレッ！コレエエエエ～っ★オトコおおお～っ★」



「あなたたちみたいないやらしいおじさん達にエッチなコトされ過ぎて・・・

無理やりエッチな女にさせられたからじゃないのっ？

「おいおい、ちょっと待ってくれよビーデルちゃああ～んっ！自分から喜んでオナナに変わっていったじゃないか～！

そもそも、男とチンポを期待しなきゃ、バブルドラゴンなんかに出場しないって～！」

「やはあああ～っ！コレッ！コレエエエエ～っ★オトコおおお～っ★」



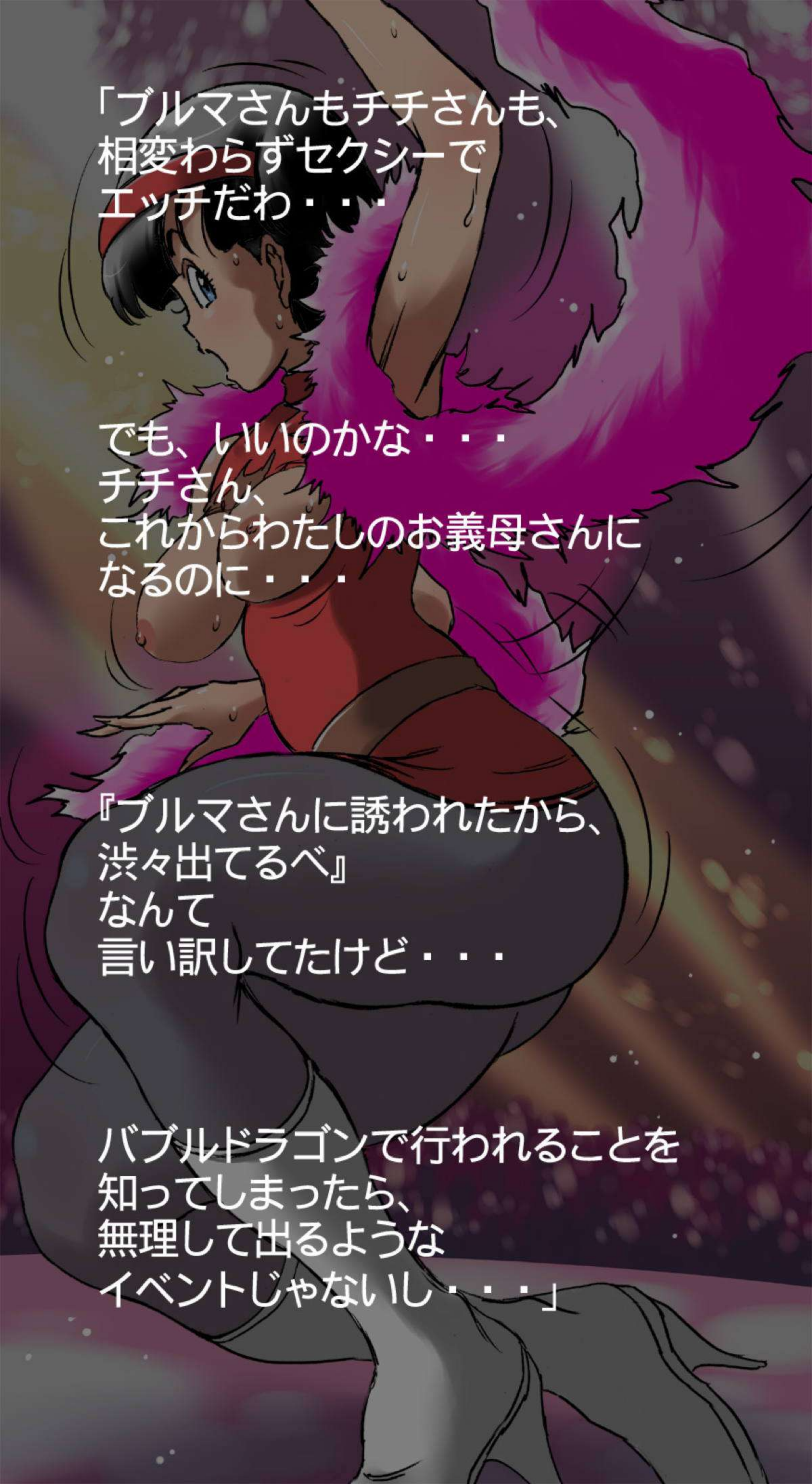
「まったく・・・
何も、お腹に子供を孕んでまで
バブルドラゴンに
出場することなかったのに★」

「あはあああ・・・
だって・・・
結婚しちゃう前に、
刺激が欲しかったんだもの・・・
今後、出場できるかどうか
わからないから・・・
はあ、ふう、んううう・・・」



「まったく・・・
何も、お腹に子供を孕んでまで
バブルドラゴンに
出場することなかったのに★」

「あはあああ・・・
だって・・・
結婚しちゃう前に、
刺激が欲しかったんだもの・・・
今後、出場できるかどうか
わからないから・・・
はあ、ふう、んううう・・・」

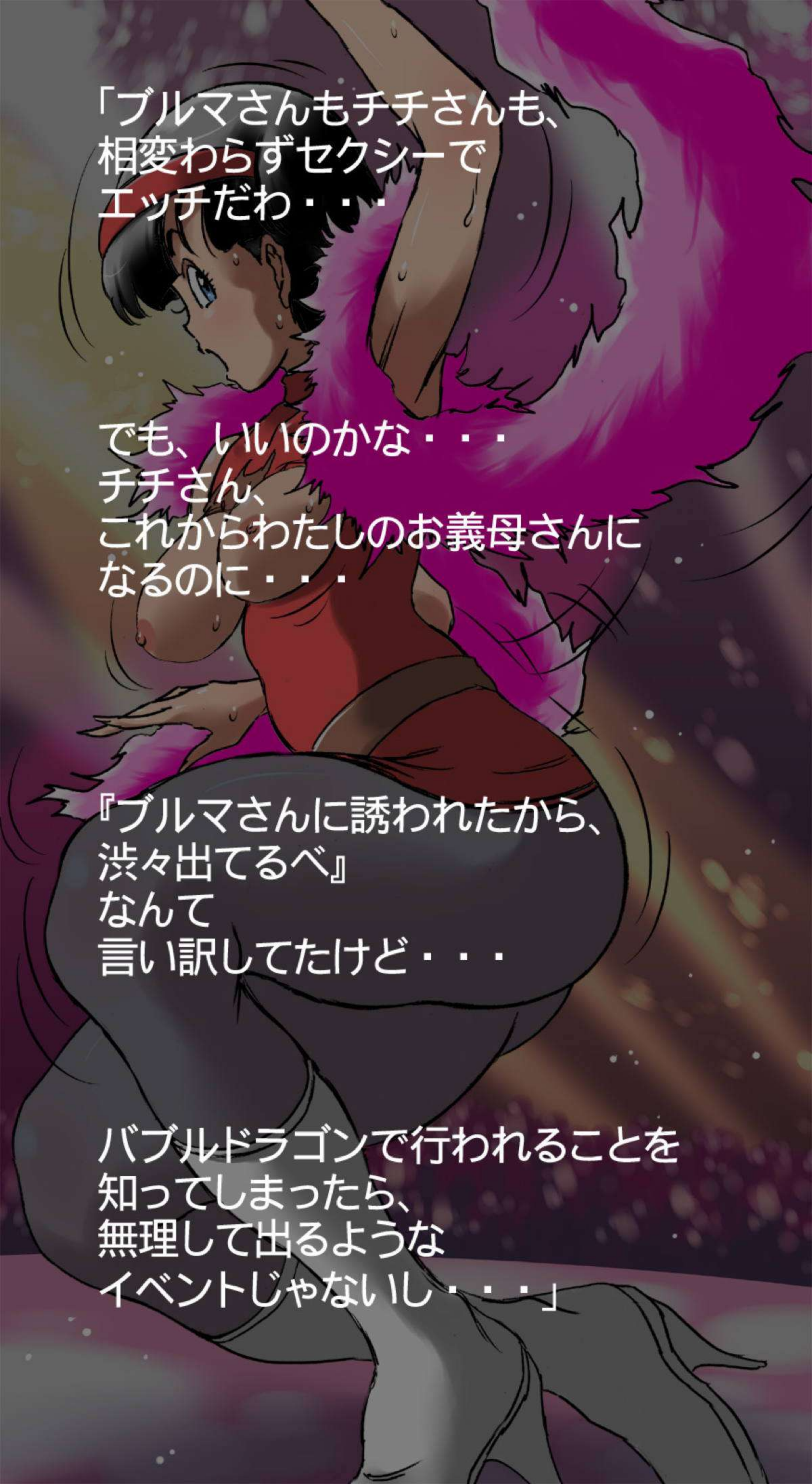


「ブルマさんもちちさんも、
相変わらずセクシーで
エッチだわ・・・」

でも、いいのかな・・・
ちちさん、
これからわたしのお義母さんにな
るのに・・・

『ブルマさんに誘われたから、
渋々出てるべ』
なんて
言い訳してたけど・・・

バブルドラゴンで行われることを
知ってしまったら、
無理して出るような
イベントじゃないし・・・」

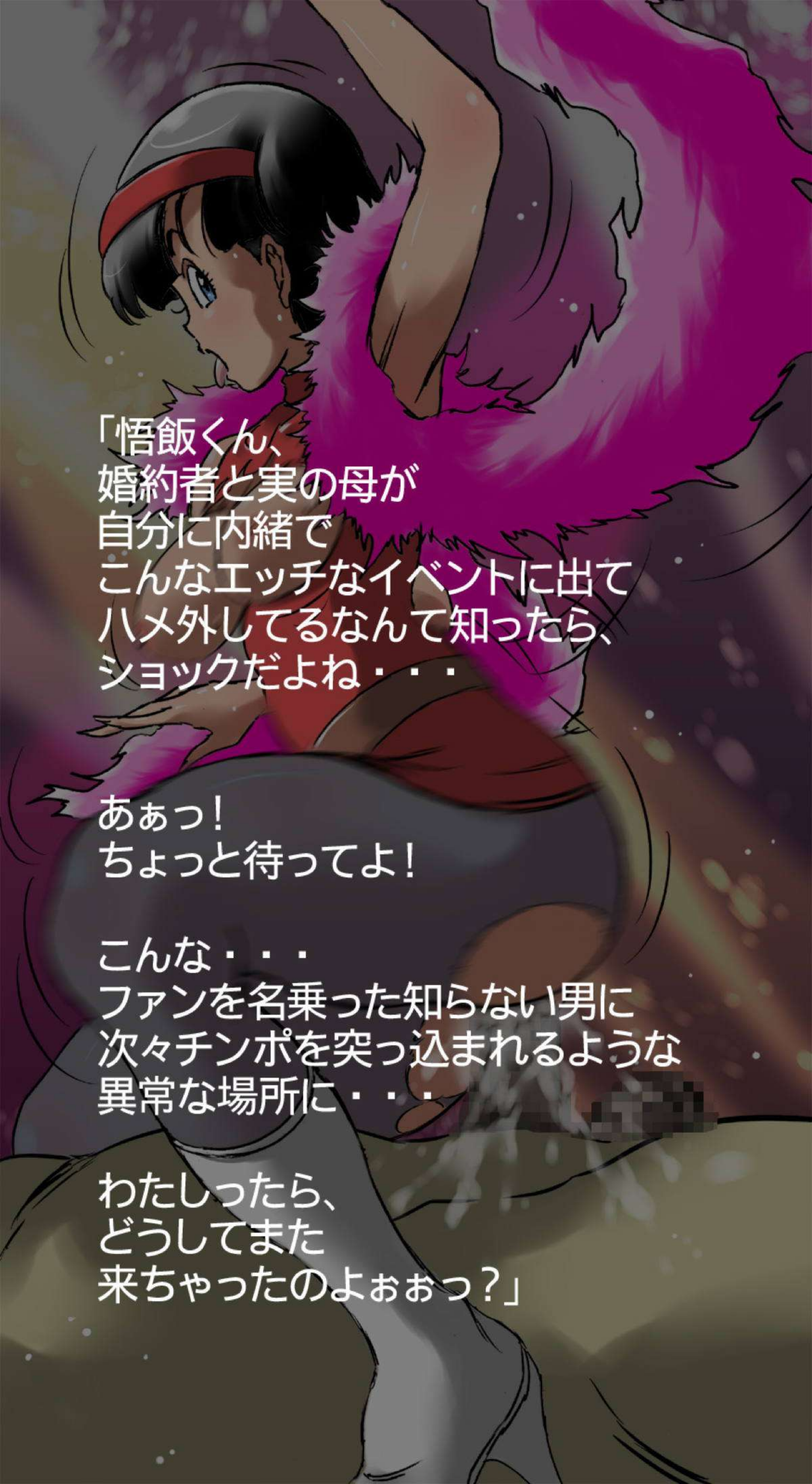


「ブルマさんもちちさんも、
相変わらずセクシーで
エッチだわ・・・」

でも、いいのかな・・・
ちちさん、
これからわたしのお義母さんにな
るのに・・・

『ブルマさんに誘われたから、
渋々出てるべ』
なんて
言い訳してたけど・・・

バブルドラゴンで行われることを
知ってしまったら、
無理して出るような
イベントじゃないし・・・」



「悟飯くん、
婚約者と実の母が
自分に内緒で
こんなエッチなイベントに出て
ハメ外してるなんて知ったら、
ショックだよな・・・」

ああっ！
ちょっと待ってよ！

こんな・・・
ファンを名乗った知らない男に
次々チンポを突っ込まれるような
異常な場所に・・・

わたしったら、
どうしてまた
来ちゃったのよおおっ？」



「んああああっ!

みんなっ……

あたしが子供を孕んでもいなくても、
どのみち中出ししてくるうう〜っ!

どうしよう……

この連中の汚い精液が、
お腹の子に
かかっちゃってるかも……!

ごめんね、
こんなだらしないママで……」



「みんなに中出しされちゃったから、
知らない男の精液が、
わたしの赤ちゃんに
かかっちゃったかも……」

「そっ、そんなのイヤ！
少しでも、外に出さないと……
腰を振れば、出てくるかな……？」

「おほおおお～っ★
ビーデルちゃんったら……
これだけ中出しされても、
まだまだ
チンポが足りないのかよ～っ！」

「かっ……勝手なこと言って……
ヒドイわよおおお～っ！」



「あっ！
ちょっと、パパってば！
こっ、こんな格好で抱えられて・・・
みんな見てるじゃない！
も～！
勘弁してよお！」

「どお～だ！みんな！
娘のビーデルは、美人だろう！
自慢の娘を、
わたしのファンに自慢してやらねば！」



「しかしビーデル・・・
ついこの間まで小さな女の子だったのに、
すっかりいオンナになって・・・

妊娠して孫も生まれるのは嬉しいが、
悟飯くんのところへ嫁いでいってしまうとなると
寂しくなるなあ・・・

やっ・・・やっぱりイヤだ！
わたしは認めん！
結婚なんぞ！
ふんぬっ！」


「ええっ？
パパ、急に何言い出すの？
子供だってできてるのに・・・
ああっ！んはあああ～っ★」



「子供までできた
嫁入り前の娘が、
こんな卑猥なイベントに
出場しておいて
何を言うか!


・・・そもそも、
悟飯くんも悟飯くんだ!
結婚前にうちの娘を孕ませるなんて
真面目な顔して、ヤルことやりおって・・・
すっかり騙されたわ!
うっ・・・くふっ★」

「あっ、あっ、あっ・・・
そっ・・・それはああ・・・
んくううう～っ!」



「ふうう～・・・
だから、結婚などよせ！
お前も嫁失格なのだから、
一生わたしのところにいれば
いいではないか！
かわいい孫は、
わたしとお前で育てればいい！
な？いい考えだろう！」

「かっ・・・
勝手なこと言わないでよパパ！
今さら、
結婚をやめられるわけないでしょ？」



「もうっ・・・みんな、
結婚前のムスメ相手に
何考えてるのっ？」

しちゃったことは、
もう消せないけど・・・

今日のことは、絶対に忘れてよ？
誰にも言っちゃダメだからねっ！
とくに悟飯くんにはっ！」

「ウヒヒヒ・・・
安心しなってビーデルちゃん★
正直自慢したいけど・・・

これが原因で離婚とかされちゃって、
人妻を楽しめなくなったら
困るもんな～★」




「何？その最低な理由！
まあいいわ・・・
お願いよ？
わたしの幸せを壊さないでね？」

「えへえへえへ～っ★
そうは言っても、
バブルドラゴンに出場するのは
ほんとに今回限りなのかなあ～っ？
怪し～いっ★」

「そうそう・・・
ビーデルちゃんこそ、
お股のユルさには
注意したほうがいいよおお～っ！
奥さああ～んっ★
ほらほら、こんなにスキだらけ！」

にゅぽいぽい・・・ズブズブぽいぽいうう～っ！




「あはあああ〜っ★
パパってばああ・・・！」

もう、出ないわよ！
今回が最後だってば！
もう絶対出ないからね！
はあっ！はあっ！はあっ！」

「ビーデルちゃんったら、
自分からお尻振っちゃって〜★
今回で卒業する気あんのかよ〜w」

「無理はいけないなあ〜、
結婚生活でストレス溜まったら、
またここに来ればいんじゃないの〜？」

「も〜いい加減にして！
パパ・・・ダメよ中出しちゃ・・・
んうううっ！
んはあああ〜っ★」



「ふう～、ふう、ふう・・・
やっ・・・
やっぱり無理なの・・・？」

普段着がボディコン服に
変わっていったのは、
悟飯くん喜んでもらいたかったからだ
と
思っていたはずなのに・・・

たくさんの男の視線と
オチンチンを求めていたなんて
信じたくない・・・！」

ヒクヒクヒクッ・・・
ぶちゃっ!ドロオオオ～ッ・・・
べちゃべちゃっ★

「おお～っ★
中出しされて
男のチンポを抜かれた後も、
ケツの振りが治まらねエエ～っ!

わかったわかった・・・
今度は、オレのチンポを入れてあげるから！」

「こっ・・・

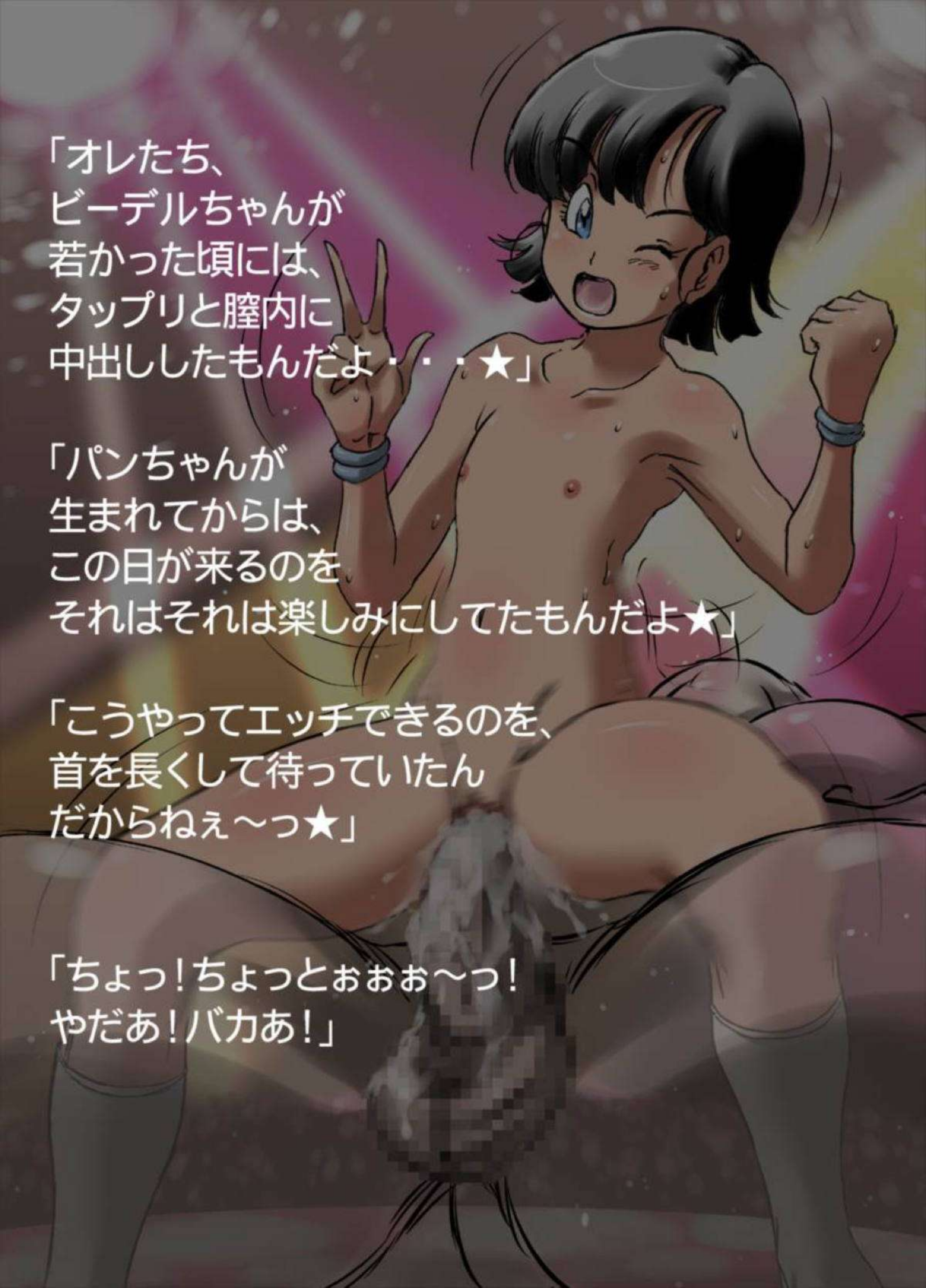
このボディコン服はっ!

ビーデルちゃんが結婚する前に
バブルドラゴン出場したとき・・・

着ていたデザインと一緒に
ものじゃないかあ〜っ★」

「まさか、親子揃って
バブルドラゴンで踊ってくれるなんて
思ってもみなかったよ・・・★」





「オレたち、
ビーデルちゃんが
若かった頃には、
タツプリと膣内に
中出ししたもんだよ・・・★」

「パンちゃんが
生まれてからは、
この日が来るのを
それはそれは楽しみにしてたもんだよ★」


「こうやってエッチできるのを、
首を長くして待っていたん
だからねえ～っ★」

「ちょっ!ちょっとおおお～っ!
やだあ!バカあ!」

「んあっ!あはあうう~っ!
あんたたちいい~っ・・・」

あたしのママに、
何てことしてくれちゃってたのよお!
そんな話聞かされる娘の身にも
なってみなさいよお!
あううう~っ★」

「お母さんのビーデルちゃんに続いて、
今度は娘のパンちゃんに精液注入っ★
ううっく!」



「はあ〜っ・・・★
母も娘もキモチよかった〜★
パンちゃんがこれから
どんなスケベな女に成長するか・・・
ホント楽しみだなあ〜っ★」

「くうっ・・・!
あたしたち母娘を
弄んで・・・この変態ども!

・・・でも、
こんな連中に囲まれながら踊る
バブルドラゴンに出場しちゃってるあたしも、
頭おかしいわよね・・・
はあっ、はあ・・・」



「元はといえば、
イレーザに
サンバカーニバルへ誘われたから
こんなことになっちゃったんだから・・・

どうして、オレンジスターの生徒で
チーム組んで出場しなきゃいけなかったのよ？
乳首とオマンコしか隠れてないような
恥ずかしい、
変態女みたいな衣装つけて・・・

しかも、
サタンシティで開かれた
サンバカーニバルだけで
済むかと思ってたら、
西の都の本選にまで進んじゃって・・・
ブルマさんたちとも会っちゃったわよ！」



「ビーデルよ、
わたしは悲しいぞ！
こんなスケベな娘に
育てた覚えはないのに・・・

何よりも正義とトレーニングを
愛していた、自慢の娘は
どこへ行ってしまったのだ？

・・・そんな悪い娘にはしつけをやり直さねば！
そらっ、ビーデル入れるぞ！」

「別に、
エッチなことが目的じゃないんだってば！
観客が勝手に興奮して、
あたしに手を出してきてるのに・・・

うふうふう～っ★
これの、どこがしつけだって言うのよおお～っ！」



「ビーデル・・・
お前の入ったチームが、


サタンシティのサンバカーニバルで
予選落ちするわけがないだろう！
お前の可愛さは、
世界中の人が見たいんだぞ！

・・・だが、
ココだけはわたしのモノだ！

お前のエッチな姿をみんなに見られても・・・
お前のオマンコには、
わたし以外の誰のモノも入れさせないからなっ！

ビーデル・・・パパの愛を
受け止めなさい！」

「あっ、ああっ・・・
もうっ！バッカじゃないのっ？
パパったら・・・
はああああ～っ★」



「パパったら、
何考えてるのよおっ！
サンバカーニバルの番組を通して、
世界中に見られちゃったじゃない！
父親と娘がセックスする姿なんて・・・
もう最悪っ！」

ブククッ・・・
ボトッ！ボト！べちゃ！べちゃっ！

「あっ！
こら、
ビーデル！
せっかくパパが注ぎ込んだ、
お前への愛情を・・・

家族は
わたしとお前の二人しかないんだから、
お互い愛し合って生きていこうじゃないか
ビーデル・・・★」